

ともえ

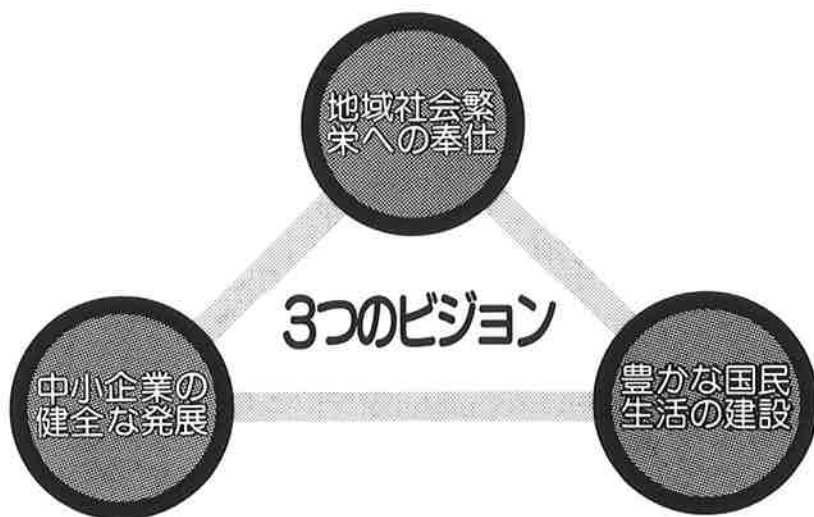
No. 59



■函館商工会議所報■

1985 11月号

豊かさを
地域に築く
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	尻岸内支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天町支店	函館市弁天町15番6号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

●ともしえ・59号目次●

巻頭言	1
会議所だより	2
調査レポート	6
アドバイスコナー	12
寄稿文	14
ご存じですか	16
制度紹介	18
事務局日誌	19
ティータイム	20
告知板	22



●巻頭言●

青函博考

昭和四十八年のいわゆるオイルショックを機に、わが国の経済は高度成長時代に終りを告げ、一時的な低成長期はありましたが、おおむね5%程度の安定成長を続けてまいりました。

一方、当地の経済情勢をみてみますと、少しは明るさが見えてきたとはいえ、現在の状況は決して良好な状態にあるといえないことは、ご理解できると思いますが、しかし、オイルショック以来十年余を経ており、一つの型として固定してきていると考えることもできるのではないのでしょうか。即ち、今このまま何ら手を打たずに「なりゆき」に任せるとするならば、現在の経済状況はこのままの姿が続き、これが当り前の状態ということになりかねないと考えるのであります。言い方を変えれば「万年不況のまじ」ということになりかと思えます。

そこで、この現在の状況を打ち破り一歩前進させるための施策の一つが、青函トンネル運用開始というチャンスをとらえた仮称青函博覧会の開催ではなからうかと思料するのであります。経済界内部からも、新しい素晴らしい芽も育ちつつありますが、これが成長するためには今少し時間が必要であらうと思われれますので、当面この事業実現のために最大の努力を尽くし、成功にもっていくことが、この地域にとって必要なのではないのでしょうか。

所 議 会

だ よ り



委員会の統廃合承認

正副委員長、理事など決まる

第 2 回
臨時議員総会

本所第二回臨時議員総会は、十月二十二日午後二時から本所会議室で開催、出席議員六十四人、委任状出席二十七人、計九十一人が出席し、委員会の改廃、正副委員長、理事選任など五議案を審議し原案通り可決しました。議事に先立ち、日本商工会議所表彰規程に基づく永年勤続職員及び永年勤続職員に対する感謝状



日本商工会議所表彰を受ける高野副会頭(右)

(表彰状)と経営改善普及及事業の推進功勞に対する通商産業大臣からの表彰状が、川田会頭から左記の議員と職員に伝達されました。

○日本商工会議所表彰

勤続十五年議員 副会頭 高野洋藏、常議員 加地彦太郎、同山田典夫、議員 大総一郎

勤続二十五年職員 総務課長補佐 竹島修一、同十年職員 杉沢博志、丸子美智子

○通商産業大臣表彰

理事・事務局長 中島 茂

感謝状、表彰状伝達の後川田会頭が議長となり、次の五議案を審議しいずれも原案通り可決されました。

第一号議案 委員会の改廃

第二号議案 正副委員長選任

このたびの議員改選を機会に、従来の四委員会、五特別委員会、計九委員会を合理化集約し(1)総務委員会(従来通り)委員長山田典夫、副委員長白戸利栄、小島悦郎(2)地域開発

委員会(従来の駅前地域再開発特別委員会・地域開発委員会を集約)委員長大越勝巳、副委員長八田俊男、東口昭(3)文教委員会(従来の文教施設誘致促進委員会を改組)委員堀田純一、副委員長加藤隆三、長門一也(4)テクノポリス委員会(従来のテクノポリス建設特別委員会を改組)委員長岡本忠作、副委員長飯田貢一、倉崎六利(5)高度情報化委員会(新設)委員長沼崎弥太郎、副委員長松崎正幸、池見厚一(6)青函博特別委員会(従来の津軽海峡博覧会開催促進特別委員会を改組)委員長田中仁、副委員長柳沢勝、北村實、黒田憲治の六委員会に、また小企業等経営改善資金審査会(従来通り)委員長加地彦太郎としました。

第三号議案 理事一人選任

理事・事務局長 中島茂(再任)

第四号議案 顧問の委嘱

函館市長柴田彰、函館税関長中井省吾、日本銀行函館支店長大浦克彦、青函船舶鉄道管理局長永井和夫、衆議院議員阿部文男・佐藤孝行、参議院議員田中正巳、元会頭加藤昇・田中誠一郎、元函館市長吉谷一次(以上十氏)

第五号議案 参与の委嘱

前専務理事 加藤進一

公平な課税など

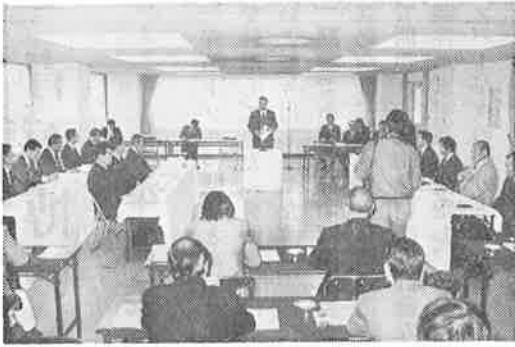
活発な意見交換行っ

税 会
座 談

ことしもまたこの社会、あなたの税がいきているをテーマに十一月十一日から十七日までを「税を知る週間」として全国各地で各種行事が行われました。

函館商工会議所でもこの週間に協賛し、去る十二日「税を知る座談会」を開催しました

当日は各業界から約三十人、税務



主催者を代表してあいさつをする川田会頭=本所
会議室で

当局から函館税務署岩川署長ら幹部九人が参集し、活発な意見交換が行われました。

冒頭、主催者を代表して本所川田会頭から、この九月に日本商工会議

所が全国各会議所の意見を集約し、政府関係機関に要望した昭和六十一年度税制改正に関する要望書の前文

から「わが国経済は技術革新や情報化の動きに適切に対応し、産業・企業

の活力を増強し発展を図らねばならぬ。税制もこの方向に沿って考えら

れるべきものである。」との主張を引用し、本日の座談会は税を知る、

知らしめる意見交換の中から今後の税制改正と、税務行政のよりよい執行に反映されるよう忌憚のない声が出

ることを期待する」とあいさつしました。

座談会は参会者を代表して六人の方々から十数項目にわたる質問、意見の開陳があり、税務当局からそれ

ぞれ懇切な応答がありました。主

な話題は次の通りです。

- 直間比率の見直し○公平な課税
- 土地の評価方法○税務調査の基本
- 方針○海外渡航経費の範囲○交際費
- と使途不明金○現物給与の判定につ
- いて等。

特に最近増えているコピー機器による契約書の作成に伴う問題として、仮契約書か、本契約書かにより印紙が必要、不必要など印紙税には判断に迷うことが多く、そのような場合は税務署へ直接電話で相談するのが早道。

また、税務調査の基本方針につい

ては、世論に逆行するもの、例えば大口の脱税行為には徹底して調査を行なうが、軽微な誤ちについては指導を重点にしている等々の解説もありました。

本座談会はことしで十二回を迎えました。本所では、日ごろの相談指導業務の中でも税に対する相談指導も多く、ともすると、税金は難しいと思われがちですが、正しい税知識の普及と、納税意識の高揚に努めております。

税を知る週間行事にふさわしい実践り多い座談会でした。

一級に17人みごと合格

第115回珠算検定試験終る

日本商工会議所主催による第百十五回珠算能力検定試験が、去る十月二十七日(日)全国一斉に実施されましたが、函館では市立の場中学校を会場に、二千六十四人が受験しました。

このうち一級受験者は百五十五人でしたが、次の十七人がみごとに合格しました。

○一級合格者

清藤 秀人 西沢みかよ

本田 紀子 潮田 泰子

虹川 えみ 二ツ森昌子
小川理都子 久馬 雅代
上野 富子 綿谷 美咲
村上 純一 稲船 智宏
服部 美幸 鈴木 大介
岡村 優子 小野 慶子
高井 雅子

なお、第百十六回珠算能力検定試験は、昭和六十一年二月九日に実施されます。

青函博いよいよ始動

準備委員会・同幹事会発足

青函トンネル開業とあわせて開催を計画していた「青函博」は、いよいよ動き出しました。

懸案であった青函博準備委員会設立総会は、十一月七日函館市会議室で開かれ、規約及び事業計画などの議件が原案通り決定し、委員会のメンバーが次の通りとなりました。

幹事長 井上博司
(函館市商工観光部長)

幹事 山田 浩
(北海道開発調整部交通対策課長)

長谷山光志
(渡島支庁地方部長)

田中 仁
(函館商工会議所青函博特別委員会委員長)

平野鶴男
(函館商工会議所専務理事)

山那順一
(函館市企画室長)

事務局長 平原康宏
(函館市商工観光室長)

当面の検討課題としては

- ① 電通が策定した「青函博覧会に関する基本構想」は、あくまでたたき台であることを市民の皆さんに認識させること。
- ② 広く市民及び関係町村とのアクセスをとり意見を聴取し、意識の高揚を図ること。

③ 青森との同時開催をふまえ、早急な意見調整の場を設けると。

④ 各関係機関の役割分担を明確にし、積極的な行動を起こすこと。

などがあげられ、基本計画策定に向けて早急に対応することになりました。

融資制度

貸付金利引下げ

◎小企業等経営改善資金融資制度(マル経)の貸付金利が〇・二パーセント引き下げられ、年六・八パーセントになりました。

この貸付金利は、十月十一日以降の国民金融公庫貸付分から適用されます。

◎北海道の融資制度の貸付金利が〇・二パーセント引き下げられました。

この貸付金利は、十一月一日以降の貸付分から適用されます。

なお、詳細は本商工会議所金融指導課へお問い合わせ下さい。

24時間安全管理

『安全』をねがい、『安全』を追求し、『安全』を創る。

函館信号工事は、防災防犯機器の専門設置会社です。より優れた防災防犯機器の普及と専門技術を通じて「災害犯罪のない明るい街づくり」のお役に立ちたい……とねがっています。

■営業品目 防災・防犯設備、電気工事、設計施工保守

函館信号工事株式会社

函館市日吉町2-2-4 電話54-1687番(代)

価値ある情報を活かせ

経営者らが熱心に聴講

倒産防止 特別講演会

当商工会議所は、政府の施策に基づいて昭和五十四年から「倒産防止特別相談室」を設置して、中小企業者から倒産の防止や円滑な整理などについて相談を受け、適切な助言、協力等を行う倒産防止特別相談事業を実施しております。

このたび、その事業の一環として、去る十一月六日日本所で、北海道商工指導センター函館支部、中小企業診断士である東恒一氏を講師として「情報の活かし方と企業経営」の第二次産業活性化のために「を演題とした特別講演会を開催しました。

当日は、特に第二次産業を中心に経営者、経営幹部の方々などが受講され、日頃の経営にどのように情報を活かせば良いか、真剣な表情で聴き入っております。

東講師は講演の中で「情報の機能としては、収集・分析・整理・意志決定・伝達の五つが考えられ、常日頃からこの情報の機能を念頭において、価値ある情報をみつけることが必要である。特に、情報源は加工さ

れて自分の手元に入ってくるため注意を要する。

また、情報を企業経営に役立てるものとして、K(経験) K(勘) D(度胸)と、他に数値・分析解析・精神基盤が必要で、管理・測定・方

浅地さん(不二屋)ら10人合格

企業戦力として活躍を期待

小売商(2級) 検定試験

日本商工会議所、函館商工会議所主催による第十三回小売商(二級販売士)検定試験が、十月二日(水)午後一時から本所で実施され、指導養成、仕入技術、商品知識、販売技術、販売事務などの難問に三十三人が挑戦し、次の十人が合格しました。

- 合格者
- 浅地良夫(不二屋本店)
- 田上 司(〃)
- 川上雅弘(㈱ニトリ家具)
- 高橋重雄(東芝家電販売㈱)

法・原材料・物・人等の情報の要素を駆使することが大切である」と語ったあとTQCの経営の七つの道具(特性要因図・パレート図・層別・チェックシート・ヒストグラム・管理図・散布図)の使い方を、「倒産企業」のチェックリスト」等の資料を用いながら卑近な例で説明し、最後に「このような手法を覚えるだけでなく、砂の中から金を見つけるように、普段から情報を敏感にキャッチするよう説き講演会を終えました。

- 谷 和夫(〃)
 - 場合達夫(〃)
 - 古川隆志(〃)
 - 大坪秀昭(ダイカ㈱)
 - 高橋 基(〃)
 - 元林幸二(東栄三洋住宅機器販売㈱)
- なお、小売商(一・三級販売士)検定試験は、昭和六十一年二月九日に実施されます。詳細は本所振興課にお問い合わせ下さい。



「わかちあう幸せ—赤い羽根共同募金」

会社法人並びに諸団体共同募金にご協力を!

函館市は早くから経済人や市民が協力しあい社会福祉を守り育ててきた先進地域であります。函館市もいよいよ高齢化社会を迎え民間社会福祉活動の大きな財源となる共同募金に会社企業も団体も大きなご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

函館市共同募金会

会長 田中 誠一郎

副会長 西野 吉一
(法人募金推進協議会会長)

副会長 村瀬 順一郎
(法人募金推進協議会副会長)

引き下げ、また生コンの荷動きも幾分鈍化。

(設 建 関 連)

管内主要官公庁の上期中公共工事発注率は、83.4%と発注目標(80%)には達したものの、用地買収難航に伴う一部官公庁の発注遅れが響き、前年実績(86.4%)を小幅ながら下回った。

(農 業)

2年続きの豊作が期待されている農産物の作柄状況は、病害虫の大量発生等に伴う登熟不良から水稻の豊作予想がやや後退しているが、畑作物は総じて順調な収穫をみている模様。

(漁 業)

近海マイカ漁は、依然極端な不振を託しているものの、秋サケ定置網漁は記録的な豊漁を続けているほか、10月解禁のスケトウ漁も出足順調。

(小 売 商 況)

9月中の市内大型小売店(10か店)の売り上げは、中旬以降の涼気到来や一部百貨店の周年記念セール実施等から、衣料品、雑貨を中心に持ち直し、月中では前年を2.3%上回った。10月入り後についても、月央以降の気温低下とともに秋冬物衣料品等が順調な売れ行きを示している模様。

一方耐久消費財では、家電販売は、V

TR、カラーテレビ、洗濯機等を中心に依然不冴えな展開となっているものの、乗用車販売は、新車の投入効果や中間決算月によるディーラー筋の払戻積極化から、6か月振りに前年を上回った(9月中乗用車新車登録台数前年比 \oplus 2.2%)。

3. 金融事情(9月中)

○管内金融機関の実質預金は、公金預金が工事代金等の支払いから減少したものの、法人筋の期末回収資金の一時的滞留から、月中183億円の増加(前年は月末休日に伴う高どまりもあって月中294億円増)。

一方貸し出しは、水産関連の原魚買付資金や卸・小売筋の期末決済資金、地方公共団体向けつなぎ資金等が季節的な盛り上がりを見ため、月中200億円の増加(前年202億円増)。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は低利な季節資金の増加もあり、月中 Δ 0.04%と前月(Δ 0.018%)比低下幅が拡大。

○銀行券は、前月末支給の公務員寒冷地手当、連休行楽資金等を中心に順調な還流を示したため、月中29億円の還収超となった(前年還収超19億円<月末休日に伴い一部還流ズレ込み>)。

○財政収支は、運用部の貸付金回収が嵩んだほか、保険、郵貯の受け入れ増もあって、受超74億円と受超幅は前年(受超52億円)比拡大。 以上

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高(10店) 昭和60年9月

品 目	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,762,587	131.9	105.5
身 回 品	482,941	106.2	98.2
雑 貨	630,047	94.3	101.3
家 庭 用 品	697,170	122.9	95.4
食 料 品	1,533,857	83.6	98.6
食 堂 ・ 喫 茶	183,998	80.7	101.8
サ ー ビ ス	74,164	118.3	117.5
そ の 他	309,891	133.1	118.6
総 額	6,674,655	108.7	102.3

※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパーズプラザ湯の川店の各店をいう。

9月

昭和60年10月29日発表

金融経済概況

日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、今次円高に伴う輸出減退の影響も目下のところ比較的軽微に止まっており、総じてみれば引き続き緩やかな上向き歩調を辿っている。すなわち、電子部品が対米輸出の減退等を背景に一段と減産を強化しているほか、乳加工品も在庫の積み上がりを眺め生産を抑制、セメント・生コン、合板でも安価輸入玉の流入増や市況軟化等から、小幅減産に転じている。しかしながら、農産物^{おろ}豊作等を映し引き合いが旺盛な段ボール、化学肥料のほか、製缶機械、造船がフル生産体制を続行しているのをはじめ、原魚潤沢な飼料・魚油、珍味加工、更新需要が上向いている漁網、合板機械等でも操業度を引き上げている。

この間、個人消費面では、耐久消費財のうち家電製品は依然不振を続けているものの、乗用車販売は新車投入効果等から久方振りに前年水準を上回ったほか、大型小売店の売り上げも気温低下から秋冬物衣料中心に底固い伸びを示している。また農産物は、水稻の一部に登熟不良が発生しているものの、全体では2年続きの豊作となっているほか、漁業では近海マイカが極めて不漁ながら、秋サケは記録的な豊漁を続けている。

金融面では、卸・小売の期末決済資金や水産関連の原魚買付資金等が季節的に盛り上がりを見せている。管内銀行の貸出約定平均金利は引き続き低下。

2. 主要業種別動向

(造船)

新造船の繰り回しが順調に推移しているほか、積極的な営業活動が奏功し修繕船受注もここへきて持ち直したことから、フル生産体制を継続。

(電子部品)

米国向け輸出の減退等を背景に製品市況の下落に拍車がかかっているため、季節工の再雇用停止等により主力機種 256 KDRAMの生産圧縮を含め一段と減産を強化。

(珍味加工)

秋の行楽シーズン到来とともに消費地問屋筋からの引き合いが上向いているほか、原魚価格低下に伴う採算改善もあって、漸次操業度を引き上げ。

(化学)

飼料・魚油では、道東沖イワシ豊漁に加え、10月解禁のスケトウ漁も出足順調で、安値原魚が潤沢なことから、フル操業体制に移行。化学肥料は、農家筋の来春肥手当が旺盛なほか、工場定期修理を控えた在庫積み増しや病虫害発生による農業需要増もあって、高操業を維持。

(機械)

製缶機械は、食品メーカーからのアルミ缶対応機種への更新需要等が引き続き旺盛なため、フル生産体制を続行。合板機械は、インドネシア、中国向け輸出が堅調なほか、国内メーカーによる汎用高級機種等も順調で、受注残高が漸増しているため、操業度を幾分引き上げ。

(段ボール)

農産物豊作や秋サケ豊漁等に伴い荷動きが活発なうえ、原紙価格の下落から採算も改善傾向にあるため、フル操業を継続。

(乳加工品)

業界の増産や、本州方面における9月の天候不順による乳製品の売れ行き不振等を映じて主力粉乳の需給逼迫感がかなり後退しているうえ、練乳等の在庫積み上がりもあって、生産を抑制気味。

(漁網)

秋サケ定置網、マグロ・カツオ旋網等の引き合いが好漁を映じて順調なほか、来季用鮭鱒流し網の備蓄生産期入りから、操業度を小幅引き上げ。

(その他の製造業)

合板は、荷動きが鈍いうえ、為替円高に伴う輸入急増懸念等を背景に製品市況が小反落に転じたため、小幅減産。セメントは、円高による輸出の落ち込み等に伴う在庫の積み上がりから漸次操業度を

と、

建設業では、今期比D I △21.9、前年同期比D I △20.0といずれもD I がマイナスを示しており、冬場へ向かって厳しい予想となっている。

製造業では、今期比D I 12.3、前年同期比D I 1.8といずれもD I がプラスを示し、比較的明るい見通しとなっている。細業種で見ると、窯業・土石製品業、金属・一般機械器具業は業績悪化を予想しているが、他は全般的に明るい見方をしており、特に水産加工業、造船業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示している。

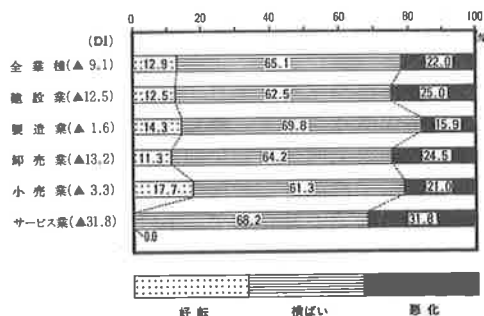
卸売業は、今期比ではD I 2.0と若干プラスを示しているが、前年同期比ではD I △14.3とマイナスを示し悪化基調を予想している。細業種で見ると、医薬品・化粧品業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し増収を見込んでいるが、逆に燃料業、建築材料業はともにD I がマイナスを示している。他の業種は今期比ではやや増収、前年同期比では横ばい状態を予想している。

小売業では、今期比、前年同期比ともにD I は△1.6と若干マイナスを示しているが、ほぼ横ばい状態が予想されている。細業種で見ると、衣服・身の回り品販売業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し増収を見込んでいるが、逆に飲食料品業、自動車販売業はともにD I がマイナスを示し減収を予想している。また、各種商品販売業はほぼ横ばい状態を予想している。

サービス業では、今期比D I △28.6、前年

同期比D I △33.3といずれもD I がマイナスを示し、業績悪化を予想している。細業種で見ると、クリーニング業・理美容業、娯楽業は横ばい状態を予想しているが、冬場のオフシーズンを迎える旅館業は、今期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績悪化を予想しており、同様に自動車整備業も悪化基調で推移される見通しとなっている。

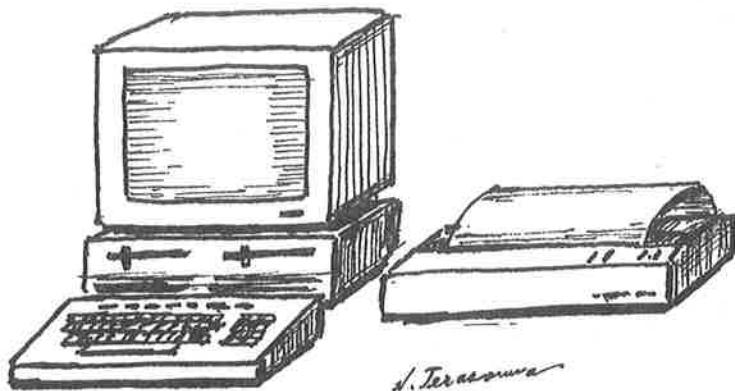
図一 来期の売り上げ見通し (対前年同期比)



3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」するとみる企業5.0%に対し、「悪化」するとみる企業11.9%でD I △6.9となっているが、「変わらない」とする企業が83.1%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると、建設業D I △15.7、製造業D I △7.1、卸売業D I 0.0、小売業D I △5.0、サービス業D I △13.6となっているが、いずれも7割以上の企業が今期並みを予想している。

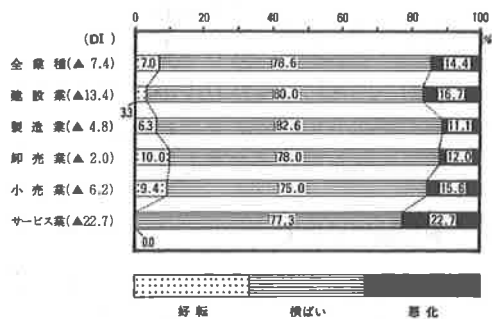


4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種で見ると、前期に比べ「好転」した企業7.0%に対し、「悪化」した企業14.4%でD Iが△7.4を示しており、悪化基調に変わらないが、「変わらない」とする企業が78.6%もあり、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にみると、各業種ともD Iはマイナスを示しているが、いずれも7割以上の企業が「変わらない」としている。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)



5. 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげている企業が多く、全業種で48.9%を占めており、前期より3.7ポイント増加している。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業59.3%、製造業43.7%、卸売業60.0%、小売業47.5%、サービス業25.0%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「工事価格の値下り」18.8%、「同業者間の競争」9.4%、製造業では「純利益の減少」17.7%、「製品安」12.9%、卸売業では「純利益の減少」12.0%、「販売価格の値下り」・「景気の見通し難」がそれぞれ10.0%、小売業では「客足の減少」11.5%、「人件費の増加」・「純利益の減少」がそれぞれ8.2%、サービス業では、「客足の減少」35.0%、「同業者の競争」20.0%等となっており、サービス業では前期に引き続き「客足の減少」をトップにあげている。

来期（10月～12月）の見通し

1. 業況について

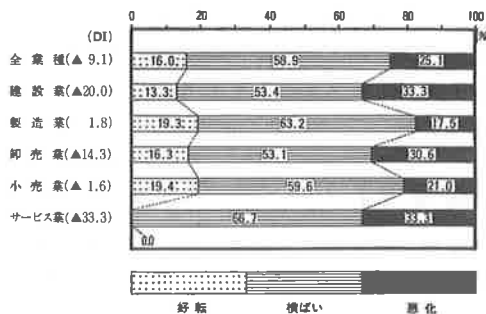
函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」とみる企業17.7%に対し、「横ばい」企業58.5%、「悪化」とみる企業23.8%でD I△6.1、また前年同期比で見ると、「好転」企業12.9%に対し、「悪化」企業22.0%でD I△9.1といずれもD Iが若干マイナスを示しており、悪化ぎみに推移される見通しである。

業種別にみると、今期比では建設業D I△25.0、製造業D I 9.5、卸売業D I△7.7、小売業D I 0.0、サービス業D I△36.4と、製造業と小売業以外はD Iがマイナスを示し、悪化基調を予想している。

また前年同期比では、製造業（D I△1.6）と小売業（D I△3.3）がほぼ前年並み、他は悪化基調を予想している。

このように来期の業況は、業種によって景況感に格差がみられるが、総体的には冬場に向かい停滞気味に推移される見通しである。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)



2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種で見ると、今期に比べ、「増加」とみる企業23.1%に対し、「横ばい」企業51.1%、「減少」とみる企業25.8%でD I△2.7、また前年同期比では「増加」企業16.0%に対し、「横ばい」企業58.9%、「減少」企業25.1%でD I△9.1といずれもD Iは若干マイナスを示しておりやや減収を予想している。

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみる

「横ばい」企業43.8%、「減少」企業32.7%で、DIは△9.2を示しており前年よりも悪化している。

次に売上額を業種別にみると

【建設業】

今期の工事完成額は、前年比DI△36.7、前年同期比DI△44.9と、工事最盛期にもかかわらず依然として業績悪化が続いており、細業種でみてもすべてDIがマイナスを示している。

このように建設業界は、住宅建築等の民需が依然として低水準を続けており、加えて工事価格の値下り、過当競争等の影響を受けて厳しい状態が続いている。

【製造業】

今期の生産額は、前期比DI6.4、前年同期比DI1.6といずれもDIはプラスを示しており、やや好転している。

細業種でみると、原料価格が安定してきた水産加工業は、夏場の需要期入りで前期比、前年同期比ともにDIがプラスを示し操業度を引き上げており、飲食料品業と木製品・家具業も比較的業績が好転している。しかし、漁網業、金属・一般機械器具業、造船業は、DIがマイナスを示しておりやや悪化ぎみに推移した。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比ではDI15.5とプラスを示し上向いているが、前年同期比ではDI△13.4とマイナスを示している。

細業種でみると、医薬品・化粧品業は前期比、前年同期比ともにDIがプラスを示し業績好転しているが、逆に燃料業はともにマイナスを示している。他の業種は、前期比ではDIがプラスを示しているが、前年同期比ではマイナスとなっている。

【小売業】

今期の売上額は、前期比ではDI△6.3とマイナスを示しているが、前年同期比ではDI15.0とプラスを示し若干上向いている。

細業種でみると、前期比では飲食料品業がDIプラスを示し業績好転、各種商品販売業は横ばい状態となっているが、他の業種はすべてDIがマイナスを示し悪化ぎみに推移している。また、前年同期比では衣服・身の回り品販売業でDIがプラスを示しているが、他はほぼ横ばいとなっている。

【サービス業】

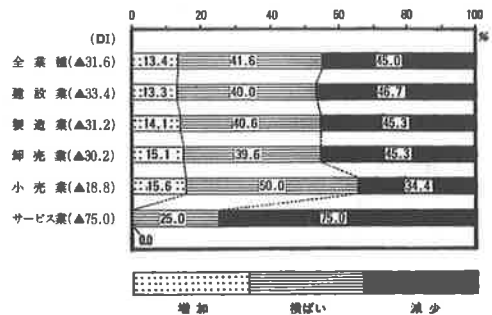
今期の売上額は、前期比DI△27.2、前年同期比DI△22.7といずれもDIがマイナスを示し、悪化基調で推移した。

細業種でみると、クリーニング・理美容業と娯楽業は比較的業績が好転しているが、逆に旅館業は、観光シーズンにもかかわらず前期比、前年同期比ともにDIがマイナスを示し業績が悪化している。また、自動車整備業も、同様に悪化基調で推移した。

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業12.1%に対し、「横ばい」企業44.4%、「減少」している企業43.5%でDIが△31.4を示しており、前年同期比でも「減少」企業45.0%が、「増加」企業13.4%を上回っており、DI△31.6となっている。

図-3 今期の純利益（対前年同期比）



このように純利益は、売り上げ不振が影響して減益傾向が続いている。

業種別にみても各業種とも悪化傾向にあり、特にサービス業は調査対象中過半数の企業が減益を訴えている。

経済の窓

景気動向調査

(昭和60年度 第2・四半期)

昭和60年度第2・四半期(昭和60年7月～9月)の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

なお、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	278社	70.4%
建設業	50	36	72.0
製造業	100	74	74.0
卸売業	80	59	73.8
小売業	120	79	65.8
サービス業	45	30	66.7

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(7月～9月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると前期に比べ「好転」している企業22.2%に対し、「横ばい」企業49.2%、「悪化」している企業28.6%で、D Iは△6.4と若干マイナスを示している。

これを業種別にみると、製造業はD I 0.0でほぼ横ばい、卸売業はD I 13.4と比較的好転しているが、他は建設業D I △28.1、小売業D I △14.3、サービス業D I △18.2といずれもD Iがマイナスを示しており、悪化基調で推移した。

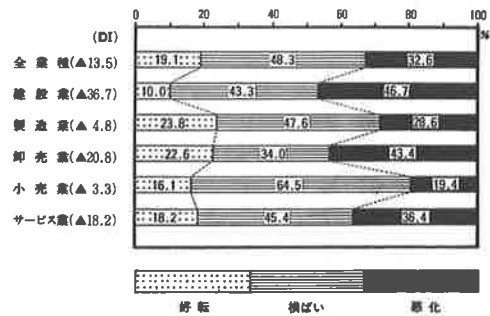
また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業19.1%に対し、「横ばい」企業48.3%、「悪化」企業32.6%で、

D Iは△13.5を示しており、前年より悪化している。

これを業種別にみると、D Iはすべての業種でマイナスを示しており、特に建設業(D I △36.7)が悪化基調で推移したが、製造業(D I △4.8)と小売業(D I △3.3)はほぼ横ばい状態となっている。

このように今期の業況は、盛業期にもかかわらず生産活動や個人消費が盛り上がりを書いており、建築関連では住宅建築等の民需が依然として低水準を続け、全体的に停滞ぎみに推移した。

図一 今期の業況(対前年同期比)

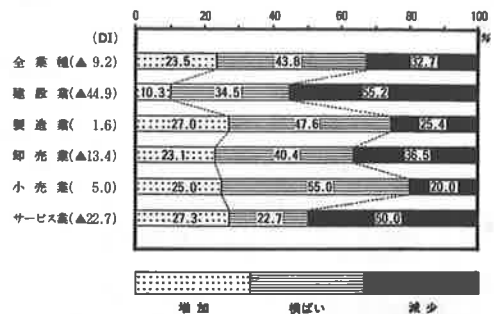


2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業27.7%に対し、「横ばい」企業40.7%「減少」している企業31.6%で、D Iは△3.9と若干ではあるがマイナスを示しており、需要期入りにもかかわらず業績は好転していない。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業23.5%に対し、

図二 今期の売上額(対前年同期比)



ヒット

栄繁

ぴんと

大企業も

小アイデアを

ヒット商品にして

いま大企業といわれているところでも、そのもとをただせば、二〜三人からはじまった零細企業です。

たとえば、家族三人で二坪の工場で、ソケット造りをしていた松下幸之助氏は、二股ソケットを考え出して、一万個も売れてツキを呼びました。これが現在の松下雷器の基をつくったヒット商品です。

また地下タビの小発明で有名な石

橋正二郎氏が、また、久留米の小さなタビ屋の二男だったとき、地下タビの下部一帯にゴムノリをぬって、湿気が入ってこない工夫をしました。これが大きくうけて、十年間に二億足が売れて、現在のブリジストンの基礎をきずいたのでした。

こういう話をする、現在では、その程度の小アイデアではヒット商品が生まれないと、主張する人がいるかもしれませんが、それはまちがいです。考え方を少し改めたものだけでできます。

その例を紹介しましょう。アイスクリームといえば、夏の季節商品というのがこれまでの常識です。

ところがアイスクリーム業界は、五十四年の記録的な冷夏にたたられ生産過剰による投げ売りで大打撃を受けました。

そこでロッテは、アイスクリーム

の販売について検討しました。「夏だけのアイスクリームという固定観念ではダメだ。冬でも売れるアイスクリームをつくらう」という発想の転換を行い、商品開発に着手しました。

最初にできたのが『わたぼうし』です。アイスの冷たい食感をやわらげ、冬でもおいしく食べられるように、ラクトアイスをマッシュマロで包み、容器に二個入れました。

ロッテとしては、かなり自信を持っていたが、反応はあまりよくありません。

その原因を調べてみると、マッシュマロが日本人の感覚にあっていないことがわかりました。

そこでこんどは、マッシュマロにかえて、アイスをもちで包むことにしました。これが『雪見だいふく』です。

この商品が大当りしました。ロッテがねらった小学生や女子学生の層の枠を越え、大人やお年寄りにも、はば広く購入されたのです。

アイスクリーム業界では、年間三十億円以上売れば大型ヒット商品といわれていますが、『雪見だいふ

お客様の身になり愛される経営



- (株) 前側石油札幌
- (株) 前側石油釧路
- (株) 前側石油江差
- (株) 前側石油松前
- (株) 前側石油配送センター
- (株) 函館オートタイヤ自動車機器部
- (株) マエカワオート
- (株) 前側不動産
- (株) 前側電子計算センター
- (株) エプロン商事
- (株) 広野運輸

前側石油株式会社

代表取締役社長 前側内匠

本社 函館市大手町3-1 TEL(0138)27-2211(代)